

MINI BOAT FESTIVAL2011 気比の浜大会

2011年6月4日(土)、6月5日(日)

兵庫県豊岡市気比の浜

MINI BOAT FESTIVAL 地元の協力で

大きな釣果！！！！

1.5キロのアコウと、60センチのハマチ

(イントロダクション)

日本のほとんどの地域が梅雨入りして間もない6月最初の週末となった6月4日(土)、6月5日(日)の2日間、今年最初のミニボートフェスティバルが日本海は津居山湾に面した兵庫県豊岡市の気比の浜で行われました。

気比の浜では、昨年5月に続く2回目のミニボートフェスティバル開催で、今年はず前から関西エリアで活動している20隻、30人のミニボートユーザーが集まってくれました。

安全講習会と前夜祭、地元観光協会様の絶大な協力で

すべてが盛り上がった1日目

大会1日目となった6月4日は朝から晴れ、風も弱く絶好の釣り日和。午前中から次々と気比の浜に到着した参加者たちは、それぞれボートの準備を終えると、翌日の釣り大会本番に向けて、津居山湾口のフィッシングポイントを探りにボートを走らせていました。

会場となった気比の浜は、山口県まで続く長大な山陰海岸の東端近くに位置する兵庫県北部の海岸で、豊岡市に属しています。北(日本海)に開いた津居山湾の奥に広がる、長さ1kmほどの美しい白砂の海岸は、遠浅なこともあって夏場は多くの人を訪れる海水浴場となっています。

しかし数日前の台風崩れの低気圧がもたらした大雨の影響で、津居山湾に注ぐ円山川が危険なほどに増水し、それが河原の葦や低木を押し流しました。海まで流れた葦や低木は、潮と波と風によって円山湾岸に打ち上げられ、大会2日前の気比の浜も、普段はため息が出るほどきれいな浜が足の踏み場もないほどの葦や流木で埋め尽くされていました。



一面に打ち上げられた葦を熊手で集め焼却



海岸で焼却される葦や流木

そのままでは、大会の開催さえ危ぶまれるほどの惨状でしたが、気比の浜観光協会ほか地元の方々が、急きょ、1台の重機と多くの方の熊手の作業で葦や低木を集め、焼却するという作業をしてくださり、6月4日の朝には、浜はなんとかミニボートの揚げ降ろしができるまでに復旧していました。この場を借りて深い感謝を申し上げます。



午前中の地引網体験、漁獲は今一歩



午前中に行われたミニボート体験試乗会
子供たちの笑顔がこぼれる

そんな気比の浜で本番前の予行演習と軽い釣りを楽しんだ参加者たちは、午後からの受付を済ませた後は、安全講習会の会場となった気比の公民館へ移動しました。

安全講習会ではまず、日本舟艇工業会ミニボート安全委員会による「ミニボート安全講習」が行われました。今回から統一されたプログラムに沿って行われるこの講習会の受講者には、日本舟艇工業会ミニボート安全委員会による[受講証明書（2011年度ミニボート安全講習会.docにリンク）](#)が発行されることになっており、新しい試みとして注目を集めていました。



手話通訳の方を見ながら熱心に受講する参加者



第8管区海上保安本部をはじめ多くの方の協力で
充実した安全講習会

そのほか、カートップボートの伝道師、小野信明さんによる「ミニボートの光と影」というテーマでの講演、地元の城崎マリーナのスタッフによる「津居山湾最新釣り情報」、関西小型船安全協会による「ミニボート安全 DVD の上映」、舞鶴の第8管区海上保安本部の海上保安官による「最近のミニボートの事故の詳細レポート」など、充実した講習会であり、参加者全員が最後まで熱心に受講していました。

昨年も参加してくれたた聾啞の方々のミニボートグループは、今回は8人で参加、豊岡市の手話通訳の方とともに講習を受講、活発に質問していたのが印象的でした。

安全講習会の後は、場所を民宿の駐車場に移しての前夜祭を行いました。バーベキューを楽しみながら、釣りのポイントや仕掛け、大きな魚を釣り上げたという自慢など、釣り師ならではの話は尽きませんでした。

ミニボートで続々大物を釣り上げる。

アコウとハマチが勝負を左右

大会2日目は、ミニボート釣り大会。今回は、青魚（1尾の長さ）と根魚（1尾の重量）の2部門で腕を競うことになりました。

このほか、特別賞の指定魚として、「タイ」が前日に発表されていました。種類は問わず、○△ダイという名なら何でも審査対象にするというルールになりました。

まだ、薄暗い午前5時半、湾口の岬の山影から太陽が昇る中、開会式。すっ

かり明るくなった午前 6 時、スタートフィッシング。参加艇はのんびりとポイントを目指して、指定された釣り海域に出航して行きました。



日本海に登る朝日をあびて出航準備



天気晴朗？波低し！いざ出航

天気は曇り、最初のうちは弱い南の風で、まあまあ釣りコンディションといえる海でした。しかし午前 7 時頃になると、風は南西に変わるとともに風力も上がり、コンスタントに 4m/s の風速で吹き始め、8 時頃にはブローで最強 7m/s まで吹き上がりました。

ただ、陸からの風だったため、大きな波になることなく、風もしだいに収まり、ストップフィッシングの 11 時まで、参加者全員が思う存分、ミニボート、カートップボートでの釣りを楽しみました。

ガシラやメバル、ヒラメ、アジ、サメなどの、さまざまな魚が検量コーナーに持ち込まれました。魚の種類も数も多い海であることを実感しながら検量した結果、青魚の部では 60 センチのハマチを釣り上げた中屋敏雄さん（大阪八尾）が、根魚の部では 1.5 キロのアコウ（キジハタ）を釣った仲田さん須川さん（京都宮津）が、それぞれ優勝を飾りました。お二人には優勝盾のほかに地元特産の但馬牛のお肉セットなどの副賞が贈られました。青魚の部で優勝した中屋さんは龔啞というハンデがありながら、昨年大会でも大きなタイを釣り優勝しており、釣り大会ではほとんどありえない 2 連覇達成。この快挙に、参加者たちは惜しみない拍手を送っていました。

このほか、それぞれの部の 2 位、3 位にも盾と地元産品の副賞が贈られました。タイの部ともいべき特別賞は、親子で参加していた小林篤史さんと諒斗（7キト）くん。全参加者の釣果中で、たった 1 尾のタイを釣っていました。28センチの普通の型のハナダイでしたが、これが盾と豪華な副賞をもたらしてくれました。小林さん親子は根魚の部でも 690 グラムのアコウを釣り、3 位をゲットしていました。



根魚の部 1位 1470 グラムのアコウ



青物の部1位 堂々の釣果60センチのハマチ
副賞は地元名産「但馬牛」

そして検量後、急きょ、もう一つの特別賞が設けられました。その特別賞をゲットしたのは、前日の安全講演会で講演してくれた小野信昭さん。小野さんは、今回はコンペティターとしては登録していませんでしたが、オープン参加者として、最初から最後まで、コンペティターに混じって大会に参加していました。その小野さんが全参加者の誰よりすばらしい釣果を上げました。60センチのハマチ、590グラムのアコウ、40センチのホウボウ、45センチのマゴチなど、タイラバでダイナミックな釣果を見せてくれました。さすが先生という尊敬を込めて特別賞に輝きました。



特別賞 さすが先生！堂々の釣果

特別賞と根魚の部3位を獲得





豊岡市役所、気比の浜観光協会の皆様ありがとうございました。

参加者一同

昨年は大雨で、いろいろたいへんな大会でしたが、今回は、天候にも恵まれ、大成功のうちに幕を閉じることができました。

はるばる車で遠征してきていただいた参加者のみなさん、準備から後始末まで大会をサポートしていただいた豊岡市役所、気比の浜観光協会をはじめとする地元のみなさん、ほんとうにありがとうございました。

(レポート＝日本舟艇工業会ミニボート安全委員 植村敬久)

MINI BOAT FESTIVAL 2011 気比の浜大会

開催日:平成23年6月4日(土)、5日(日)

会 場:兵庫県豊岡市気比の浜

【ミニボート釣り大会結果】

(参加艇 : 20艇 30名)

	優 勝	第2位	第3位
青物の部	中屋 敏雄 ハマチ 59.7cm	土井 俊昭 キス 18.3cm	小倉 一郎 アジ 16.0cm
根魚の部	中田 光明 須川 裕二 アコウ(キジハタ)1470g	中村 英一郎 アコウ(キジハタ)1050g	小林 篤史 小林 諒斗 アコウ(キジハタ)690KG

特 別 賞 小野 信昭

小林 篤史

小林 諒斗